

学校だより

あのみ

令和二年 十二月号
志布志市立尾野見小学校

小・中が連携して

校長 宗岡 克英

十一月三十日に松山中学校区小・中連携合同研修会が開催されました。この研修会の目的は、小中学校の職員が集まり、情報交換を行い、学習や生活に関する課題についてその対策を話し合うことです。また、小・中が連携して実践できることを再確認したり、新たに考えたりする場でもあります。例年は、松山中学校区内にあるいづれかの小・中学校を会場として授業を参観したり、話し合いを行ったりしていましたが、今年には感染症予防対策のために四つの会場に分散して開催しました。尾野見小学校では、学習指導部会が開催されました。一番話題になったことは、①子どもたちがメディア（ゲームやテレビ、インターネット等）に費やす時間が増加し、そのことが家庭での学習時間の減少や生活リズムの乱れを招いている。②その対策として、家庭学習状況調査等で自らの生活時間を振り返り、自分でメディアコントロールする力を育てていく。③家庭と協力しながらメディアを使いすぎの怖さを認識し、そのことを子どもたちに伝えていく。ということでした。また、中学校の先生から、子どもたちに、「なぜ今学ぶ時期なのかを理解させ、本人のやる気を引き出したり、様々な体験活動を通して夢を持たせることが大切ではないか」という意見が出されました。その

【校訓】 明るく・強く正しく・すこやかに

- 十二月の生活目標
- 友達と仲良く生活しよう
- 十一月の保健目標
- 心の健康を考えよう

は日々の授業の中でなぜ学ぶのかについて子どもたちに語っているそうです。メディアコントロールと子どものやる気を引き出す指導は私たちに課せられた大きな課題です。小・中が連携して、そして保護者の方々とも連携してこの課題に取り組みしていきたいと思えます。

◆人権週間

十一月三十日から十二月四日まで校内人権週間をとおして、人権とは何か、また、みんなと仲良くしていくにはどうしたらよいか



について、各学級で標語づくりや話し合い、体験活動や道徳の授業などをおして学習しました。相手への思いやりや認め合う心など、わたしたちの身の回りのコミュニケーションの大切さを考える時間となりました。また全校朝会では、不安からくる「差別」についても考える場を設定しました。自分とは違う状況にある人を、偏った形でとらえないよう、まず自分たちが相手の現状を知って支え合う社会作りを学ぶ姿勢を忘れずに日々過ごしていきたいものです。

◆松山中校区小・中交流学習

今月十日に、松山中校区小・中交流学習を行いました。来年中学校に向けて、子どもたちが互いに一緒になる同級生を知り、中学校では、どのようなことを学習しているのかを感じてもらおう交流です。しかし、今年は、コロナ禍のため、小学校同士の交流は、リモートで実施しました。お互いの学校ごとに自己紹介を行い、画面の向こうにいる他校の同学年の子どもたちとそれぞれの発表を聞き合いました。発表をおして、それぞれのクラスの雰囲気や子どもたちの様子が伝わってきて、子どもたちからも互いに打ち解ける様子が伺えました。

中学校との交流は、例年、小学生が中学校へ訪問していたのですが、今回は、中学生が各小学校へ訪問して行いました。総合的な学習の時間に環境について学習したことを壁新聞で説明してくれました。中学一年生の六つのグループのうち二グループが「砂漠化」「森林破壊」という環境問題について、社会の現状報告や対応策を発表してくれました。内容も深く、六年生にとってはよい刺激になりました。

